

令和7年度 第2回あま市総合計画審議会 会議録

開催日時	令和8年2月26日（木） 午前10時から午前11時40分まで
開催場所	あま市役所 2階F会議室
出席委員（敬称略）	太田昌史、木村考志、小林優太、静谷貴代子、鈴木正夫、 鈴木加奈枝、立松愛唯、谷口庄一、鶴田佳子、服部章平、 早川安広、溝口正己、武藤二三夫
欠席委員（敬称略）	近藤真司、横井光明
事務局	服部哲也（市長公室長）、室田裕貴（企画政策課長）、説田将光（企画政策課主幹）、片岡篤志（企画政策課課長補佐）、峯佳吾（企画政策課主任）
議題	(1) あま市の現況について (2) 第2次あま市総合計画の成果報告について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の有無	無
次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 (1) あま市の現況について (2) 第2次あま市総合計画の成果報告について 4 その他 5 閉会
配布資料	資料1 第2次あま市総合計画後期基本計画策定のための基礎調査報告書 資料2 第2次あま市総合計画前期基本計画成果報告

	1 開会
	2 会長あいさつ
会長	今年度3回あるうちの2回目の会議となります。前回たくさんご意見をいただいたので、それが今回の会議にどのように引き継がれているかをご説明していただいて、それから前回の議論の総括と、それが今回どう繋がっているのかということを少しご説明していただいてから審議のほうに入っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
事務局	今、会長のほうからございましたとおり、前回のおさらいとしてご説明させていただきたいと思います。 前回は第1回目の会議ということで、市民アンケート調査の案を皆様にお示しをさせていただきました。アンケートの内容は、基本的には前回は踏襲したもの、前回からどうな

	<p>ったかというところを確認するものですので、前回から設問の内容は変わるものではありませんということがございましたが、その中でも、市民活動の部分を詳しく聞くことや、どのように活動を展開しているかの記述欄を設けたらどうかとか、そういったご意見をいただきましたので、アンケートを修正し発送をさせていただいて、今、進捗としましては、集計取りまとめを行っているところでございます。</p> <p>もう1点は、後期の基本計画を作るにあたって、策定方針というものを皆さんにお示しをしました。策定方針の中で、会長からもお言葉いただきましたけど、協働をさらに進化させるという方向で進めて欲しいというご意見もいただきながら、資料を作らせていただきました。また、計画の構成のところ、谷口先生にご参画いただいている総合戦略を一体化しますよというところをご説明させていただいたところでございます。</p> <p>またスケジュール等につきまして、会議の開催は今年度3回、来年度も3回となっております。アンケートの結果を踏まえ、課題を洗い出しつつ、その施策満足度と、今やっている取組との乖離があるのかなのか、このまま進めていいものなのか、もっともっと加速させなきゃいけないものなのかというところの判断をして、最終的な後期の基本計画を作るという形で考えております。1回目に関しましては、このような形でアンケートと今後の進め方について説明をさせていただいたということで、ご説明をさせていただきます。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。皆さん、よろしいでしょうか。今日は手持ちの資料はまだ途中段階ではありますが、アンケートの結果が出た時点で、3月にはそれも踏まえた上での方向性が示されるということでよろしいでしょうかね。</p>
事務局	<p>3月につきましては、あま市全体の満足度が出てくる形になる予定です。地区別や世代別といった、クロス集計はもう少しお時間をいただく形にはなると思いますが、どういう世代の方が何を求めているのかというのは当然、基本計画を作る上で必要ですので、それも追ってお示しをさせていただきたいと思っております。</p> <p>また、アンケートにつきましては、当初作ったときのアンケートの回答数が、同じ3,000件に対して1,176件でした。先ほど見たら1,177件でした。前回に比べ1件上回ったということで、現状の報告をさせていただきます。Webも活用しながら、回答をできるだけ集めたいというところはございましたけれども、前回とほぼ同じ回答数ということでした。</p>
	<p>3 議題</p>
会 長	<p>それでは議題に入りたいと思っております。議題の(1)、あま市の現況についてということで、事務局より説明をよろしくお願ひいたします。</p>
事務局	<p>(資料1に基づき事務局から説明)</p>
会 長	<p>ただ今の説明につきまして、ご質問、ご意見等はございますか。</p>
委 員	<p>項目によっては県内の市町村の順位が何番目か書いてありますが、財政力指数や外国人の数のほうは県内でどのくらいの位置にいるのですか。</p>

事務局	<p>財政力指数は決して隠しているつもりはありませんが、いいほうとは言えない状況ではあります。</p> <p>外国人の方については、比較的多いほうかと思えます。国籍は豊田のほうだとブラジルの方が多くはありますが、あま市については、ベトナムの方やフィリピンの方が多いということ言えると思えます。</p>
委員	<p>財政力指数について確認させていただいたのは、8年度の当初予算の発表の時に、財政調整基金が3分の1と大きく報道されてますね。それだけ厳しいということ考えないといけないということですね。</p>
事務局	<p>はい、そのとおりです。</p>
副会長	<p>57ページの延床面積についてですが、どれくらいの支出があるかという内訳はありますか。</p>
事務局	<p>維持管理ですか。調べれば分かりますが、今は持ち合わせがありません。申し訳ございません。</p>
副会長	<p>維持管理とそれに伴う人件費もありますね。この並びでなぜ延床面積なのかと思いました。財政の話ですよ。</p>
事務局	<p>あま市では公共施設等総合管理計画というものがあり、そちらも策定から10年経ったということで、再配置のあり方や施設の統廃合が大きな財政的な負担となっていくのは間違いないので、ここではこういった施設がありますよという形のご紹介だけをさせていただいています。当然行財政改革の中で、この公共施設の再編統廃合というのは大きな要素となりますので、それを踏まえた計画作りも大事だと思っております。</p>
副会長	<p>財政でお金の話が挙がっているので、必要なのは分かります。今回の話ですが、上水道施設と下水道施設は施設の部分の面積ですか。配管の部分は入っていないのですか。</p>
事務局	<p>施設です。</p>
委員	<p>基本的に数字ベースの報告が多いと思いますが、ところどころ原因の推測なども踏まえています。こういった課題はこれから検討していく予定はありますか。</p>
事務局	<p>当然ここであぶり出される課題があります。今回、差し替え等があったのも、私どものほうで分析を勝手にしてはいけないというところもあったからです。私どもができてないと思っても、実は皆さんの評価が高かったというところもあります。まずはこのタイミングでこういう客観的な数字が出ていますということに対して、市民の皆さんの思いや意向調査の結果を見て、今後、前期5年でやっている施策をそのままもっと進めていくのか、少し方向性を変えるのかという材料になる形で捉えていただけるとありがたいです。</p>
委員	<p>例えば、48ページの不登校の数字が増えています。数字だけではなく、どうしてそうなっているのか、傾向が分かると思えます。そういうことが分かったほうが課題も浮き彫りになって、何をしないといけないか分かると思うので、特に数字が変わっているものに関しては見続けていくといいと思えます。</p>
事務局	<p>こういうところが、5年前と状況が変わっているので、もっと推進しなくてはいけないという計画になるのだと思えます。</p>

会 長	今のことに関連して質問ですが、前の総合計画の中でやっていくことに対して、うまくいっていること、うまくいかないことを踏まえて、方向性を決めるというようなストーリーがいいかと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	そのとおりだと思っております。
委 員	不登校について、最近ではその要因も複雑多様化していて、教育委員会としてもいろんな手立てを取っていますが、全国的に減少していない状況です。比較をすると、あま市は他の市町村に比べて多いことは多いですが、分析をこの総合計画の中でしていくのは難しいと考えます。一生懸命やっている中で、あんまり言われても少し辛いというところはあります。書いていただくのはいいのですが、今まで何もやってないのではないかと思われるのは辛いので、それだけは申し上げさせていただきます。いろいろな要素がありますので、難しいということをご理解いただきたいと思います。
委 員	2024年に能登地震が起こって、住民の住宅も含めてライフラインが全壊しました。東南海地震が必ず起きると言われている中で、そういう状況になったときにいち早くライフラインについて、市民にきちんと伝わるような体制維持がこの中に出ていないです。それを踏まえて、もう少しその辺のところも基礎報告書の中に出していただければと思います。
会 長	災害に関する項目がないということだと思いますが、国土強靱化計画を愛知県もビジョンとして掲げています。その辺を今後、書いたほうが良いというご意見ですが、いかがですか。
事務局	あくまでこちらは計画ではなくて、基礎調査ということです。今の総合計画の中の課題のところ、防災対策の充実が必要ですよという課題があって、その中に迅速な復旧作業が必要ということが記載してあります。計画の中には災害に対する対応ということも盛り込みますので、またそのときにご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いします。
会 長	先ほど副会長からお話があった公共施設の話ですが、財政的な部分をずっと議論していて、特に下水や水道について、私はパーセントが少ないのも知らなかったのですが、その辺も含めて、公共施設総合管理計画の上位計画になってくるとと思いますので、成果も入れて報告されたほうが良いと思いますので、ご検討いただければと思います。 それでは、議題（1）は一区切りということで、休憩を取りたいと思います。11時に再開いたします。
	(休憩)
会 長	それでは続きまして、議題（2）「第2次あま市総合計画の成果報告について」事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料2に基づき事務局から説明)
会 長	ただいまご説明がございましたが、ご意見、ご質問等ございましたらよろしくお願いします。

<p>委員</p>	<p>5ページ、「水と緑の快適環境」中の成果で、「あいち森と緑づくり都市緑化推進事業を活用し、都市緑化に取り組んだ」とありますが、具体的にどんな場所でしょうか。あま市民の目線としてはあまり代わり映えがないという気がしています。</p> <p>もう一つ、6ページ、「公共交通」の「巡回バスの運行」で、「巡回バスを運行することにより、移動制約者の移動を助けることができた」とありますが、私の隣に住んでいる方が85歳の女性です。運転できなくて最近足も悪くなって、そのバス停までとても歩けないと言います。自転車はかろうじて乗れるので自転車で行こうと思ったけれど、公共施設であれば自転車置き場があるけれども、一般の幹線道路では自転車を止める場所もないし、雨宿りする場所もないので、とても使えないという意見がありました。この施策はやってるからいいというのではなくて、もう少し考えていただいたほうがいいのではないかと思います。あま市も急速に高齢化して、こういう方たちが増えてくると思います。やってるからいいじゃなくて、これは少しずつアップデートされていけばいいと思います</p>
<p>事務局</p>	<p>森と緑づくり都市緑化推進事業については、市民の皆様が行う緑化活動の経費の一部に対して補助金を交付するもので、市内の既存集落において民有地の建物、また敷地の緑化を進める事業です。市としてどこかに公園を作るというものではありません。例えば工場などを作るときに緑化面積を50㎡以上確保することに対して補助を行うものなので、少し見えにくいものではありますが。あとは市民参加緑づくり事業というものもあり、これは森ヶ丘公園の植栽を、市民の方にやっていただいて、それに対して県から補助が出たという事例はありました。</p> <p>バスにつきましては、企画政策課のほうで担当しているのですが、委員が言われるようなご意見は多いです。タクシーのようにドアトゥードアではありませんので、定時定路線でバス停でしか乗れません。ただ、リピーターなのかどうかははっきりしたことは言えないのですが、年々、数字としては増えています。3ルートあるのですが、この建物ができたときにここを通るルートに変えたとか、回り方を少し変えたことはあります。田んぼの際などに地権者の方をお願いをしてバス停だけ置かせていただいているところもありますので、バス停のところに自転車置き場と言われるとなかなか難しいです。おっしゃるとおりこれは課題だと思っている方も多いので、私どももアンケートの結果がどう出るのか見てみたいと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケートと行政サイドの評価も合わせ、次回の報告になるのでしょうか。</p> <p>2点目が、全体的に成果の部分が非常に抽象的だと思います。関わっていれば分かりませんが、詳細の説明がないと分かりにくいというのが正直なところです。特に12ページの③で、「青少年健全育成」成果が、「啓発活動を中心に裾野を広げる活動をし、地域で青少年を見守り育む体制を整えた」とありますが、実際に中学生の地域での問題も聞いたりしますし、具体的にどのような施策をされたのかというところが見えづらい部分がありました。</p> <p>3点目、17ページ、「市民まつりや市民活動祭を実施することで、多様な主体が参加しやすい協働のまちづくりを推進した」と書いてありますが、私どもは市民活動センターを</p>

	<p>運営して市民協働を推進してきたのですが、参加しやすいことが協働のまちづくりではなくて、行政と市民活動団体との協働という括りで市民活動団体等を支援してきました。市民まつりや市民活動祭というのは、市民活動団体が発信をする場だと思っているので、少し認識のずれがあるように感じます。</p> <p>4点目、18ページの施策3の①「地域間交流」です。「コミュニティ活動事業補助金の交付を通じて、地域コミュニティの活動が活発になり」と書いてありますが、市民活動センターに登録するコミュニティ協議会が14コミュニティあり、現実には本当に疲弊しています。世代交代にも悩みがあって、お金の交付はあっているいろいろな活用はされていますが、目に見えない成果がこれではなかなか見えづらいというところがあります。そういうところに改革を入れないと、なかなか変わっていかないと実際に携わって実感しています。</p>
事務局	<p>青少年の健全育成について、「あまつり」は夜に中学生が出歩く機会なので、毎年「あまつり」のほうに来ていただいて、ピラを配ったり見回り活動をしていただいているのは実際に見ております。</p>
会長	<p>1点目は今後の進め方のことだと思います。あとは個別の17ページと18ページです。</p>
事務局	<p>評価については、3月の時点でアンケート結果が一次評価でしか出ないタイミングなので、次回か次々回かということで回答とさせていただきます。</p> <p>市民まつり、市民活動への参加のところ、今は門戸を広げて参加してくださいという形でイベント等をやっている、それが行政と協働しきれているかと言われると、決してそうではないという面はあると思います。今後、計画を作っていくときに、お考えをいただけるとありがたいと思います。</p> <p>コミュニティのところは、補助金の関係で企画政策課のほうに各団体の方がいらっしゃるのですが、毎年のように夏祭り、秋祭りとイベントをやっている地域の方もいる一方で、もうやり手がないというところもあります。そこが地域の問題であって、放り投げてはいけないと思うので、補助金を出して十分支援していますとは言いきれませんが、補助金を出すというのは一つの手段であって、決してそれが解決にはならないと認識しています。この中には市民活動等に長けた方がいらっしゃるの、ご意見をいただくと、非常に今後の計画づくりに役立つと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>地域に関しては、あま市全域で、たった14しかコミュニティという体を成していないのです。前回もお伝えしましたが、自治会もない地域もあります。加入率が非常に低い地域もあります。なので、やはり地域力を上げるということが次の計画の肝だと実感していますので、今後またいろいろご意見をさせていただいて、地域の人たちからの情報を収集して、この計画に協力していきたいと思っています。</p>
委員	<p>成果を活字にするのは非常に難しい話です。私も行政マンだったのであえて言いますが、これを見る限り、やはり行政マンの自己満足で、こういうことをやって、こういう事実がありましたと知らせているだけです。行政としては、こういうデータをバックデータとして明確にしておけばいいと思いますが、そのバックデータを聞かれたらどういう形で表に出すかというのは、行政運営の中で非常に難しい判断です。活字として作るだけなの</p>

	<p>か、実態を見せないかという判断は、もう少し今後を考えたほうがいいのかと思います。以前の総合計画は夢を描いてこういう方向に持っていくと大きな絵を描いたのですが、財源があつての計画なので、最近はそれができない状況にあります。どこを大きくピックアップしてどこを削るかしないといけないので、全部がオールマイティないい計画はなかなかできないのかと思います。働き方改革と仕事の量との兼ね合いがありますが、行政マンはいたって弱い立場なので、そういうことをやったというバックデータをしっかりと押さえていただけたらありがたいと思います。</p>
会 長	<p>ご意見として受け止めたいと思います。</p>
委 員	<p>「補助金」と書かれているものは、市から出されたものという理解でよろしいですか。</p>
事務局	<p>はい。行政がなかなかできない分野でご活躍されている方、活動されている方に対して補助をしています。</p>
委 員	<p>どういう形で使われたかというところまで入っているといいと思います。</p> <p>もう1点、公共交通について、事前にいただいた資料にもあるように、移動制約者の方の足となることが目的としていると理解しております。公共交通の委員会でも利用率の評価もされていて、使われているものだと改めて感じています。先ほどおっしゃられたように、なかなか利用できない方もいると考えたときに、公共交通の評価を必要としているのかと思っています。ルートの中にみんなが住むわけにはいかないの、カバーしきれないところを福祉の領域でどうカバーするのが大事なのではないのかと思っています。事前にいただいた資料の中で、課題として利便性向上と書かれていたと思いますが、誰の利便性をどのくらい向上することを目指しているのか、少し見えたほうが計画としてはいいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>補助金のところにつきましては、実際に使った内容と補助金の目的などについて考えたいと思います。</p>
会 長	<p>公共交通についてはいかがですか。</p>
事務局	<p>今の巡回バスは、確かにバス停が遠くて使いづらいという意見をいただきますがバス停を近くにすればするほど、1ルートの運行時間や距離が延びたり、使いづらいという面も出てきます。公共交通でどこまでできるのか、公共交通でカバーできない部分については、委員が言われたように福祉の分野で何か調整が考えられるかと思っています。高齢者福祉や障がい者福祉が課題として捉えて、計画のほうに反映させていければと考えております。</p>
会 長	<p>あま市は公共交通網形成計画などは作ってらっしゃるのですか。</p>
事務局	<p>未策定です。</p>
会 長	<p>公共交通でバス路線でなくても、例えばデマンドタクシーとか人口密度が低いところではいろいろな方法があるので、公共交通の形成計画も作られたほうがいいのかと思います。それは、総合計画の下にぶら下がってくるものですが、その上にそのことが書いてないといけないので、もう少し幅広く公共交通を捉えていただけたほうがいいのではないかと思います。</p>

委員	<p>17 ページ、「交流と連携により成長するまち」と書いてありますが、町内会が次々と廃れていっています。既存の町内会も人がいなくて縮小しています。行政でやっていただいていることは分かりますが、地域の祠やお宮さんとかお地蔵さんは、自治会が全部管理して行事も行っていきますので、その町内会がなくなってしまうたら、それはもうできなくなります。その辺を地区から出ている議員にお尋ねしても、町内会や自治会のことに行政は関わり合いません、意見は言えませんがとだけ言われます。これを行政としてはどう見ているのでしょうか。自治会というものの価値を、あま市全体としてどう見ているのか、いつも疑問に思っています。</p>
事務局	<p>確かに加入率の低下というのは承知しております。もし大災害が来たときに行政ができることは、支援した物品の管理、分配があります。それが届いたときに誰がするのかというと、やはり地元のほうの自主防災会などになると思います。その自主防災会は数が減っておらず、訓練回数が増えているので、そういうところの繋がりを強化していく必要があると考えます。今は町内会に入っているとあれこれ負担に思うことはあるかもしれませんが、私の私見になってしまうかもしれませんが、そういったところにそのメリットをもっと出すだとかということがあれば、いざという時にみんなで助け合うことができるのではと思います。</p>
委員	<p>町内会でそのことが話題になりました。急速に新しい世帯が増えていますが、2人とも働いているから出られませんかと言われました。そのときに「町内会に入っていなかったら、地震などの災害が起きた時に放っておかれるのですか」という質問があって、それはないと答えました。すると「入っている意味はなんですか」と聞かれました。加入率が40%割っており、また町内会が一つなくなれば、もっと下がります。地域のほうでやっていただきたいからお願いと言われてもできません。そういうときはどうされるのですか。</p>
会長	<p>このままでは加入率が減って運営ができなくなっていることに対して、市はどうするんですかっていう質問です。だからそういうのをきちんとバックアップして、防災上非常に必要なので、市としてもそういう活動が潤沢にできるようにサポートする、あるいはこうやっていくということ聞かれていますので、それを答えていただきたいです。今、答えられないのであれば、次回あるいは総合計画の中には、そういうことをきちんと書いていただいて、今日、皆さん一生懸命やろうとおっしゃって来ていらっしゃる方々にきちんとお答えして、その方々が活動を頑張ろうと思えるような計画書にしていきたいと思います。今すぐ回答するのは難しいかもしれませんが、次回でよろしいですか。</p>
委員	<p>考えていただくことだけでもずいぶんな進歩だと思います。</p>
会長	<p>これは、前回からも出ている話ですので、協働を掲げてこれから深化していくと書こうと言っているのですが、大変かもしれませんが、正面からぶつかっていただけたらうれしいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
委員	<p>貴重なご意見で実態は本当にそのとおりです。市民活動センターが立ち上がって数年後に、コミュニティ協議会の推進を企画政策課で所管して、一緒にコミュニティ交流会をさせてもらってきたのですが、ある時から担当の方がいなくなり、補助金だけを交付するだ</p>

	<p>けに変わってしまったのです。議員に聞いても、所管してないと言われました。コミュニティの推進は、ただ補助金出すだけとなって、担当者からのその代わりの話としては、市民活動センターで支援してほしいということでした。市民活動センターに登録しているコミュニティに関しては、今も支援させていただいて交流会をしたり、リーダーの話し相手になったり、相談したりというサポートはしてきたのですが、自治会に関してはわれわれの手が及ぶところではありませんでした。甚目寺は新しく人が入ってくる地域でもあります。やはり地域性に応じたコミュニティのあり方があると思います。事例は違うかもしれませんが、学校の中でもPTAが形骸化してきた中で、PTAのボランティア化が進んでいて、新しく入ってきた人たちが自ら手を挙げて、PTA活動をするという動きも出てきています。自らが活躍したいという市民の方を中心にしたコミュニティ形成のような地域づくりを、この計画なり今後、積極的に進めていただければと思います。</p>
副会長	<p>8ページ、「市民病院は指定管理者制度の導入で利用者が大きく増加」とありますが、具体的に指定管理者制度を導入して、なぜ利用者が増えたのでしょうか。</p>
事務局	<p>医者が増えたからです。私どもがやっているときはなかなか医者が来ない。医局制度があって、なかなか医師の派遣がなく、大学も自分のところで精一杯という状況で、一時期、医者が7人とか、そんなレベルまでいきました。そこで新病院を整備してそこで指定管理をやってくださいという形で公募したところ、手を挙げていただいたのは、地域医療振興協会というところになります。全国展開しており、僻地医療などそういうことをやっているところで、そこから医師がどんどん来るようになったということです。やはり病院というところは医者がいて、看護師がいてこそということですので、本当に一言でいうと医者が来たからですという回答になります。</p>
副会長	<p>病院がある程度経営的に成り立たなくてはいけないというのは理解できますが、ただ利用者を増加させるというのは少し微妙な感覚があると思います。市民病院はこの地域の基幹病院であれば、高度な医療や治療を行います。少しの体調不良は地元の病院になるので、利用者だけの指標というのは少し誤解があるかなと思います。</p>
事務局	<p>病棟を持っているので、基本的には入院する方が来る病院というのが大前提としてあります。少し風邪ひいたという方は、かかりつけ医のクリニックに行ってくださいというのは昔からあります。この辺の人は市民病院だけでなく、何かあると日赤に行こうとかという方が結構いるので、その周知啓発はもっとしていかないといけないと思います。</p>
副会長	<p>その上のところの消防団については、先ほどありましたように、町内会や地域コミュニティとも連携していると思うので、横につないで政策を考えるという項目がないと、危機感だけが残ってしまいます。もう少し希望を持てるようなものを入れたほうがいいのではないかと思います。</p> <p>13ページの目標V、産業関係ですが、アートヴィレッジそのものは観光施設だというのはいいのですが、七宝焼は産業なのか観光なのかというのは少し悩ましいところだと思います。大阪万博でも尾張七宝は、パビリオンに展示されていたのですが、尾張七宝を観光に生かすのか、産業に生かすのかという指針が地元がないと難しいと思います。七宝焼の</p>

	<p>人たちにSDGsのバッジを作ったらどうかといったら壊れるからだめだと断られました。尾張七宝でミyakミyakを作るといいのではないかと思います。ほかの焼き物のミyakミyakは10万単位で売れています。産業として魅力があると若い人たちが七宝焼をやりたいと思いますが、尾張七宝の扱いが雑すぎるので、もう少し施策として考えてもいいかと思います。</p> <p>総花的であるのは総合計画の仕方ないところではあるのですが、あまりにもターゲットトレンドが目の前過ぎると思います。基本的にはあま市にずっと暮らし続けたい、あま市で子どもを産みたい育てたい、あま市に行きたいというのが大前提です。ここに載っているステップが、それぞれ施策によって、ステップ3でたどり着くものもあれば、10かかるものもあるかもしれないですが、今、ステップの何番なのかという形にしないと伝わらないと思います。</p> <p>公共交通の話もありましたが、足が動かなくなったらどうするというは当然、誰にでもある話ですが、10年、20年先にその方がずっと生きているかというのは別の話で、また別のところで言いたい人が出てきます。それにひとつひとつ対応するとこれは政策ではないです。全体的な政策があって市民が納得するような、今はステップのこの段階で、そのときに本当に困っている人にはどう手を差し伸べるのかということ、明確にしておかないといけません。これから人口も減ってきて財政も厳しくなる中で、全部をやるというのは多分不可能になってくるので、市民と企業と行政とそれぞれがどう手分けしていくのかということをもっと早い段階で進めていかないと、手遅れになってしまい、みんなあま市から出ていってしまうという話になってしまいます。一番便利な名古屋市がすぐ隣にあるので、お金のある人はみんな出ていきます。本当に生活が苦しい人だけが残っていくということにならないために、ターゲットはきちんと作って段階的な形でやらないと、今の市民は納得できないし、未来の市民も納得できないと思います。このままでは不安だけ残る総合計画になりかねません。</p>
<p>会 長</p>	<p>全体としては、恐らく成果報告というのが本来であれば前期基本計画の検証なのですが、アンケートの結果がないためか、全然検証になっていないと感じます。今日皆さんにいろいろ意見をいただいたことは、アンケート結果がないことにプラスアルファとなるご意見だったと思います。成果の書き方が非常に抽象的で分かりにくいというご意見があったと思います。私もよく分からないところがありました。先ほどバックデータをとおっしゃいましたが、それ以前の問題です。さらに加えて、そのバックデータをどう見せるかどうかという話がありますし、いつの段階でやるかというスケジュールまで書き込むのかという見せ方もあると思いますが、どういう表現の仕方をするのかというところをもう少しご検討いただいて、市民にとって分かりやすい計画書にしていただければと思います。</p> <p>次の3月の時に成果だけでなく、検証的な話で、そこで皆さんに今日いただいた意見を追加していただきたいと思います。1000人のアンケートの回答だけで、もう少し細かな内容は皆さんが持っていますので、またその場面でいろいろご意見いただければと思っています。よろしくお願ひします。最後その他ですが、何か事務局からございますか。</p>

	4 その他
事務局	次回の審議会は3月17日(火)を予定しておりますので、改めて開催通知を送付させていただきますのでよろしくお願いいたします。
	5 閉会